三重県委託事業　人権保育専門講座８ 連続講座①

『各園における人権保育を推進するために』

（2023年10月6日）

常磐会短期大学 教授　ト田（しめだ）　真一郎（しんいちろう） さん

高槻市立五領認定こども園　堂本（どうもと）　志都（しづ） さん

人権保育専門講座8-①では、常磐会短期大学教授のト田真一郎さん、ゲストスピーカーとして高槻市立五領認定こども園の堂本志都さんに来ていただきました。堂本さんには**「一人ひとりの『すき！』『おもしろい！』『やりたい！』を大切に」**と題して実践を紹介していただきました。

1.堂本さんのお話より

＊Aについて＊

Aは3歳から入園し、初めての集団生活が始まった。遊びが見つけられずに部屋のなかで足踏みをしながら友だちの様子を見ていたり、時間を気にして時計ばかり見たりしてすごしていた。数字や文字、時計や時間の流れに対して興味関心が強く、園庭では一人で地面に文字や数字を書いて遊んでいた。

行動に移すまでに時間がかかり、ひとつひとつの行動をゆっくり行うため、集団のなかで流れから遅れてしまうことがあった。帰る準備の時も、時間が過ぎていくのが気になるが、スムーズに行動できずに焦ってパニックになっていた。自分から意欲的に保育者や周りの子に話しかけることは少なく、困っている時は涙をためながらその場で立ち尽くしている姿があった。

Aは3・4・5歳異年齢クラス24人（3歳：8人、4歳：8人、5歳：8人）のなかで生活しています。堂本さんは2年間、Aを中心に据えたクラスづくりをしていきました。そのクラスづくりで大切にしてきたことが「どの子も自分の思いを出しても大丈夫と思えること」でした。そのために「遊び」を通してお互いを尊重し合える取組を進めていきました。「遊び」では、「自分の考えを発信すると仲間に受け入れられ尊重される」、「みんなの意見を取り入れると、遊びがより楽しくなる」という経験を繰り返していくことを大切にされました。Aの好きな遊びをクラスづくりの目標と重ね合わせ、Aの好きな遊びをみんなで楽しんでいくなかで、どうしたらうまくいくのかという意見を出し合える関係をつくっていきました。その関係をつくるために「遊びの流れの見通し」を作成し、「Aの家での遊び」や「クラスのつぶやき」などを丁寧に書き込んでいきました。

こういった「遊び」を発展させるには、一人ひとりの興味関心のあることと、中心に据える子の興味関心のあることや得意なことを融合させて、「遊び」を通して周りの子と繋がりを持てるように保育をデザインすることが大切だと教えていただきました。最後に「子どもたちが主体的に遊びを進めていけるように、答えをおとなが出すのではなく、子どもたちが自分たちで導き出せるように、考えや思いに傾聴し、ときに励ましながら、一緒に考えようとする姿勢で子どもたちと向き合っていきましょう」とメッセージをいただきました。

2.参加者の感想より

- 明日から実践したり意識したりしていきたいとワクワクしながら聴かせていただく時間でした。人権感覚はクラスづくりのなかから始まり、クラスづくりは社会づくりの始まりなのだと、改めて、今の私たちの言動や保育の在り方の大切さを感じました。質疑応答の際に、自分の保育の現場について話されている方を見て、同じ悩みを持っているのだなと共感でき、悩んでいるのは私だけではないのだと安心できたことも、次の学びのきっかけにつながりました。
- 先生自身が本当に楽しそうで、自分の子どもをこんな先生にみてもらいたい！と感じるほど素敵な方だと思いました。「子どもをリスペクトする」と言われたことが印象的で、単に表面上での尊敬ではなく、本当に心から尊敬の気もちを持っているんだと感じました。先生の取組や普段のかかわりから、子どもと同じ視点に立つとはこういうことなんだと学ばせていただきました。クラスづくりは保育士の無意識の感性、価値観が表れると痛感しました。自分はどうだったかと見つめていきたいです。
- ト田先生の話から、クラスという社会のなかで、みんながいきいきと暮らせる社会とは何かについて考えました。子どもたちの姿から、めざす社会をイメージし、どのような価値観を育てていくことが必要か、具体的にねらいをたてていく必要性を感じました。堂本先生の保育から子どもたち一人ひとりに対しての尊敬のまなざしが言葉や表情になって表れているように感じました。それが子どもの安心、自己発揮につながっているように思いました。